

エコキャップ回収運動 活動報告

2020年2月よりデイリーフーズビル（本社ビル）にて開始したエコキャップ回収運動を2022年度より全支店で活動を開始いたしました。全社での活動は、今年で3年目となりました。活動状況について報告いたします。

○ 活動目的

森永乳業株式会社の「サステナビリティ中長期計画 2030」で掲げた3つのテーマのうち、「資源と環境」・「人と社会」にフォーカスし、社内のサステナビリティ活動のきっかけとして従業員の誰もが気軽に参加できるエコキャップ運動を行っております。当社ではエコキャップ運動を以下のような目的で行っております。

・支援国へワクチンの寄付

回収したキャップをリサイクル会社へ寄付し、そのキャップから製造したリサイクル製品を売却した利益を開発途上国へのワクチン代として寄付していただいております。

・ペットボトルゴミの分別

ペットボトルをリサイクルする際、キャップやラベルなどの異物が少ないほうがより純度の高い資源として再利用することができます。その為、当社ではキャップを洗浄してから回収BOXに入れることを徹底しております。実際に、東京都港区の家庭ごみではペットボトルからキャップとラベルを外してこれらを資源プラスチックとして捨てることになっています。キャップとペットボトル本体を分けて処分することはリサイクルの効率化へ多少なりとも貢献できると考えております。この取り組みは、森永乳業グループ環境方針（※）の基本方針より、「循環型社会形成に向けて、廃棄物の3R（発生抑制、再使用、再生利用）及び適正処理を推進」することにもつながっていると考えております。

※森永乳業グループの環境方針 < <https://www.morinagamilk.co.jp/csr/environment/> >

○寄付実績

年度	キャップ回収量		ワチン（人）	CO2削減量※（g）
	数量（個）	重量（kg）		
2022年度	42,950 個	93 kg	47 人	293.0 g
2023年度	58,282 個	126 kg	63 人	398.2 g
累計	101,232 個	219 kg	110 人	691.1 g

※上記はおおよその数字となります。

※キャップをごみとして焼却した場合に想定される発生量

（キャップ 1 kgで約 3.150 g の CO2 が発生する想定）

○ 今後の目標

- ・社内ではマイコップやマイボトルの使用が定着していますが、夏場は特にペットボトルの使用機会も多くなります。キャップの回収量が多いほど良いということではありませんが、引き続き、ペットボトルがキャップやラベルと分別して処分されることを目指します。
- ・全事業所での活動開始から今年で3年目となり、この活動を「当たり前」に実施できています。現在、森永乳業販売として様々なサステナビリティ活動の実施・計画をしておりますが、エコキャップ回収のような「当たり前」に実施している活動も「サステナビリティ活動の基礎」として非常に大切だと考えています。今後もこの活動を継続し、積極的にサステナビリティ活動に取り組んで参ります。